



元気っ子

No 302 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

朝晩めっきり涼しくなり、秋の気配が漂ってきました。体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調管理には十分お気をつけ下さい。

さて、8月、9月と非常に多くの方々から新年度入所を見据えた「園見学」のお申込みがあり、対応をさせて頂きました。あらためて0歳児から5歳児まで順を追ってながさわ保育園の保育内容とその実践のための環境を丁寧にご説明させて頂いたのですが、その根幹にあるのは「元気っ子」でも何度かお伝えさせて頂いている「保育所保育指針」です。現在の「保育所保育指針」は2018年に改訂されたものですが、改訂されるに至ったその背景にあるのは社会の変化です。核家族化や地域のつながりが希薄化してきている中、乳幼児期の感情面の発達がどのように成長していくのかということが、大人になったときの生活という長期的な側面に影響が大きいことが明らかになってきたことがその大きな要因になっています。

保育園という、どうしても就学前施設という言葉からも小学校のプレスクールのようなイメージで、「集団の中でのルールを守れるようにする」また、「先生からの指示に従えるようになる」ことなどが主眼に置かれたりします。当然、これも大切なことではありますが、それが「能動的にルールを守る」子どもなのか、「受動的にルールに従う」子どもなのかでは、保育のアプローチの仕方が180度違ってきます。ながさわ保育園で実践している保育は前者の「能動的にルールを守る」子どもの育成です。これは自己制御・自己コントロールや、レジリエンス（困難な状況を乗り越える力）などといった、学校生活だけでなく、今の子どもたちが大人になってからの社会を強く生き抜くために必要とされている非認知能力と言われるものです。この非認知能力と言われる部分の育ちについては脳科学の分野の研究からも就学前、特に乳児期（0歳～2歳）に育むことが一番効果的だと言われています。

また、選択制の活動についても、好きな活動が選べるという自己肯定感を育む側面がクローズアップされやすいのですが、この「選択」をする際におこる心の葛藤やミスチョイスをする経験がこの保育の大きな狙いです。なので、選択した結果というものはそれほど重要ではなく、その結果に至るまでのプロセスこそ大切にしなければならない部分だと言えます。この心の葛藤やミスチョイスの経験こそが、先の見通しをたてることや批判的思考といった非認知能力を育てていくと思います。

現在、内閣府は岸田首相をトップに、「総合科学技術・イノベーション会議」というものを開催しています。その中でも「教育・人材育成ワーキンググループ」が策定している「Society5.0の実現に向けた政策パッケージ」というものがあります。これはながさわ保育園の保育実践の根拠を裏付けるものとなっています。ちょっと長いので、気になる部分があれば是非ご覧になって下さい。[\(Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ \(cao.go.jp\)\)](https://cao.go.jp/)

また、在園のお子さんをお持ちの保護者の方につきましても、「園見学」をご希望される方がおりましたら、お気軽にお声掛け下さい。事前にお話を頂きましたら日時ご相談の上、主任か園長がご案内させて頂きます。

